

もの言う牧師のエッセー…第4話

「スティーブ・ジョブズ逝く」

そのカリスマ性の高さから、発言や行動が常に注目を集め続け、次々とヒット商品を世に送り出した男が、2004年以來わずらいつづけてきた膵臓癌のためついに亡くなった。正に“巨星墮つ”である。商用PCで世界初の成功、20代でフォース長者番付入り、アップル社再生に続きiPodをはじめとする豊富な製品を軸にメディア配信事業に革命を起こした伝説の男も、しかし最後はあっけなかった気がする。56歳とはいかにも若い。iPhone4Sも絶好調で、もう既に上下二巻本の伝記の出版や映画化も決定し、天才は亡くなってからも忙しそうだ。

人の歴史において政治家、科学者、商売人、スポーツ選手など“偉人”と呼ばれる人は数多おり、彼もその一人に数えられるのは間違いない。が彼は「死んでしまった」のだ。

聖書の中に今から約3000年前に書かれた「伝道者の書」という箇所がある。作者は現代イスラエル国旗のマークにもなっている古代イスラエルの名君ダビデの後継者のソロモン王だ。彼も多くの世界的事績を残し、富と名声そして権力を欲しいままにした。何せ妻が700人、側室300人いた。彼の建てた神殿は内も外も金で覆われており「黄金の神殿」だった。日本でも太閤秀吉が「金の茶室」を作ったがスケールがまるで違う。遠くから見るとまるで「金の小山」の様だったという。その様な彼が

「知恵ある者は、その頭に目があるが、愚かな者は 闇の中を歩く。しかし、みな、同じ結末に行き着くことを私は知った。」 伝道者の書 2 章 14 節、

などと述べている。凡人も天才も皆が等しく同じ結末、つまり死＝滅ぶということだ。これではただの刹那主義でしかないではないか！ が、これこそ聖書が指摘するところの“罪”、つまり神に造られし人間が神に背を向けた結果の迷走ぶりを表していると同時に、「我々が救いを必要としていること」も示しているのだ。キリスト・メシアとは“救い主”という意味である。一人の偉人ジョブズの死を通してメシアによる本当の救いに目を向けよう。そこに死を乗り越えることが出来る“命”がある。

Steve Jobs
1955-2011

